



12月度 議員懇談会

12月1日午前11時より福井商工会議所ビルにて12月度議員懇談会を開催、80名が出席した。

開会にあたり八木会頭は、「福井県は今、大きな変化の中にある。誰も予想しなかったような事態に直面しつつも、冷静に状況を分析しながら対応しなければならぬ」との認識を示した。また、先だって開催された常議員会にて、部会の正副部会長と委員会の正副委員長が承認されたことを報告。「部会や委員会は事業者の生の声を出し合い、行政や関係機関への提言・要望活動につなげる場。商工会議所活動の根幹であり、積極的な参画をお願いしたい」と強調した。

次に、11月26日に開催した永年勤続優良従業員表彰式・創業永年企業表彰式を振り返り、「長年にわたり事業発展に寄与した従業員や経営者に対して敬意を表すとともに、福井の産業を長年支えられた重みのある方々と出会えたことを嬉しく思う」と語った（式典の詳細は本誌70ページを参照）。

加えて、11月29日に開催した会員交流eスポーツ大会についても報告し、80名を超える会員事業所の従業員が熱戦を繰り広げ、交流を深めた様子を紹介。次年度以降の大会の継



部会長・委員長へ委嘱状を手渡した

続や、現在計画を進める福井アリーナ（仮称）を会場とした将来の規模拡大に向け意欲を示したほか、議員企業の参加を呼び掛けた（イベントの詳細は本誌62ページを参照）。

続く卓話では、福井県未来創造部DX推進監の前側文仁氏が「AI時代のDX」について講演。前側氏はDX（デジタル・トランスフォーメーション）の背景として、スマートフォンの普及やChatGPTなどの生成AIの進化を例示し、デジタル技術が急速に発展している現状を解説。たった一言の指示で高品質な動画が作成できる時代となり、ビジネスにおいて生成AIが戦略立案や提案を行うなど、様々な場面で活用が進んでいる事例を紹介した。

一方で、生産年齢人口の大幅減少

や働き方改革の影響により、日本の労働力全体が大きく減ることも言及。採用面では、新卒の約4割が企業のDXを重視し、若者の約9割がアナログな職場を「やめたい」と感じている現状から、人材確保の観点からもDXが急務となっていることを指摘した。

さらにDXの本質について前側氏は「デジタル技術を取り入れることではなく、変革することが重要」と強調。DX推進のポイントとして、①経営層が示す明確な方針、②利用者目線での組織づくり、③社員が自ら取り組める雰囲気、④デジタルネイティブ世代の活用、の4点を提示し、「DXは目的ではなく手段。何のためにやるかを明確にし、経営層が率先して取り組む姿勢が重要」と締めくくった。



福井県未来創造部DX推進監の前側文仁氏

開会の挨拶に立った八木会頭